



例会日・木曜日 12:30~13:30  
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島  
会長 森信 秀樹  
幹事 諏訪 昭浩

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78  
リーガロイヤルホテル広島13F  
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870  
E-mail: hwrc@godorc.gr.jp  
作成・会報雑誌・広報委員会

RIテーマ Light Up Rotary

「ロータリーに輝きを」

本年度会長テーマ

「隗(かい)より始めよ ロータリー」

## 「職業奉仕・米山月間」

2014年10月2日 第2162回例会  
10月第1例会

### ◆ 会長時間 ◆

森信会長



皆さんこんにちは。朝の連続テレビ小説が「ごきげんよう」から広島弁に変わりましたが、国産ウイスキーづくりに生涯をかけた竹鶴政孝さんの生き様は、まさに波乱万丈の

中にも悔いのない一生ではなかったかと推察します。

先日、人工の照明光で野菜などを作るいわゆる植物工場の事業化セミナーに行ってきました。外部と遮断した建物の中で蛍光灯を点けて、栄養分は液体肥料で温度管理を行いレタスなどを作る工場の事業化を紹介するものでした。

ところで、広島県の調査では県内で消費される野菜の市場流通率は12%程度でしかないことをご存じでしょうか。その理由は、広島県の固有の問題として中山間地は傾斜地が多く大規模農地が少ないことや野菜は専業農家でなければ市場に安定的に供給できないという事情があります。これらも相まって、卸売市場では宮崎、佐賀など政策的に大規模産地が形成され、価格競争力も弱いことなどが原因と考えられています。

人工光での植物工場は山木会員もかつて学ばれ

た千葉大学園芸学部が最先端のようです。教授のお話の後、卒業生で植物工場の事業化を行い、大学構内での実験農場はじめ東北での復興事業としてこの工場の建設から運営などまで取組んでいる若き経営者が事例の報告をされました。

海外では、南極昭和基地、極寒のモンゴル、今政治的に話題の香港でも安心安全な野菜を供給するなど、世界的にも大きな市場があることに気がされました。まさに冒頭のドラマ主人公「マッサン」の姿と重なりました。

また福島のあるIT企業は、空いたクリーンルームで低カリウムのレタスを作り、全国に安定的に供給していました。人工透析をされている方は、生野菜の摂取が制限されているようですが、来月から広島の地元スーパーでもこのレタスが販売されるようです。

このように、新しい形態で食料の安定供給が進むことは大変喜ばしいことであり、熱心な参加者を見ると今後広島県でも参入が進むものと思います。

私は、長く住宅・工場などの外断熱工法にかかわってきましたが、今後機会があれば既存工場を高気密高断熱化改修して広島でも野菜の安定供給ができないか、お好み焼きのキャベツが安定的にできないかなど夢を膨らませています。セミナー

講師に事業の成功へのカギは何かという質問に「一つのことを極めることです」という答えが印象に残りました。

今月は職業奉仕月間です。職業奉仕の根っこの部分について参考になるひと時でした。

**米山奨学会 米山功労者感謝状の贈呈**  
第8回 藤田 明 信 君



第3回 児 玉 裕 志 君



**会務報告** 諏訪(昭浩)幹事

※ロータリーレートが10月から1ドル106円（現行102円）に変更になります。

※次週例会は会場を広島ダイヤモンドホテルに変更して職場訪問例会となっておりますので、お間違えのないようお願い致します。

**委員会報告**

※ プログラム・出席委員会

**出席報告** 松岡(幹)副委員長

本 日 (10月2日・木曜日)  
 会員数 76名 出席者 59名  
 欠席者 17名 ご来客 3名  
 ご来賓 1名 ゲスト 2名  
 計 65名  
 前々回 (9月18日・木曜日)  
 出席率 100%



※ 職業奉仕委員会 中山理事

10月23日職業奉仕クラブフォーラムに関するアンケートについて

● 会員記念日

祝 10月お誕生日おめでとうございます。

(9名)

鈴木君 福田君 宇野君 池田君  
 小田君 村上君 前橋君 長谷川君  
 井下君



● スマイルボックス SAA 羽井委員

😊 上野君 (自主申告・大枚)

先月、東京におります長男晃裕あきひろ夫婦に無事長女が誕生致しました。私にとって初孫です。

健やかな成長を祈り、大枚を出宝します。

😊 松田君 (自主申告・大枚)

私事ですが、去る9月15日に結婚いたしました。職業柄、離婚の方はある程度知識がありますが、結婚についてはまったくの素人です。

つきましては、幸か不幸か長い結婚生活を送っておられる諸先輩方におかれましては、折に触れて、結婚生活の極意をご教示下さいますようお願い申し上げます。

😊 新本君 (自主申告・トリプル)

経済レポート9月18日号に弊社記事が掲載されました。内容は弊社が近年自社開発したUDT-48という石油タンクの底板を連続板厚測定する装置とタンク外壁目視検査ロボットの紹介です。記事は文章だけですので一般の方にはわかりにくいと思われます。ご興味のある方はTSSテレビ新広島の情熱企業の公式ホームページを見て下さい。スマイル報告として事前に例会で弊社取材番組の放映予告をさせて頂きましたが、ここに過去に放送された企業の動画が見れるようになっております。どうぞよろしくお願い致します。

😊 弥山クラブ

明日、10月3日は登山の日です。紅葉の季節となり、登山に格好のシーズンを迎えました。

我々と秋の弥山に登りませんか？弥山クラブの方はご出宝下さい。

## 🗣️ 今日は何の日より

10月1日は「法の日」です。1960年（昭和35年）に裁判所、検察庁、弁護士会の提言で、政府が「国をあげて法の尊重、基本的人権の擁護、社会秩序の確立の精神を高めるための日」と制定しました。

正義の為、昼夜問わず頑張っておられる**大本君、小田君、大植君、松田君**ご出宝下さい。

## 🗣️ 張化さん

本日卓話をされた張化さんから、西RCのお礼をスマイルにと寄付頂きました。

## ● 例会料理メニュー



## ■ 米山奨学委員会強調プログラム

### 米山奨学会の目的・事業の説明 及び奨学会への支援のお願い



米山奨学委員会  
**坂田 恵希 委員長**

「米山月間」にちなみ、本日は「米山奨学委員会強調プログラム」となっております。スケジュールは、まず私が米山奨学会についての説明及び奨学会への支援のお願い、続いて当年度当クラブの米山奨学生、喬磊さんの卓話（本日は、日本での就職活動の為欠席ですので堀江淳カウンセラーに代読してもらいます。）

最後に米山学友の張化さんの卓話となっております。

ロータリー米山記念奨学事業は、日本で学ぶ私費外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として奨学金を支給し支援する国際奨学事業で、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会が運営しています。毎年約700人の留学生を採用し、日本のロータリアンとの交流によって将来日本と世界とを結ぶ懸け橋となる人材を育てています。その歩みは日本初のクラブ、東京ロータリークラブが日本のロータリーの創始者と呼ばれる米山梅吉氏の功績を記念して1952年に始めた国際奨学事業が国内の全ロータリー地区の合同事業に発展したものです。

戦後の復興の道を歩み始めた日本にとって二度と戦争の悲劇を繰り返さないために世界の国々との人物交流を深めるため「留学生が平和を求める日本人と出会い信頼関係を築く」ことを目的に始まり、1967年7月1日、財団法人ロータリー米山記念奨学会、2012年1月4日、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。その特長は「世話クラブ、カウンセラー制度」です。奨学生一人ひとりに地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれ、さらに世話クラブ会員の中からカウンセラーが選ばれて、日常の相談役となり奨学生が安心して留学生活を送れるよう配慮しています。奨学生にとっては、ロータリアンとの交流を通じて奉仕の精神に触れ人生観、職業観を深められ、ロータリアンにとっても金銭的な支援だけでは得られない感動と事業への深い理解が生まれ、双方にとって大きな感動を生む事業となっております。年間の奨学生採用数は寄付金収入に見合った支援規模で以前は800人でしたが、“13年度“14年度は700人で“15年度は2013～2014年度の寄付額が前年度比0.9%約1200万円増となり前年度より20人増の720人となっております。これまでに支援した奨学生の累計は18,104人（2014年7月現在）、出身国は世界123の国と地域に及び国内では民間最大の国際奨学事業となっております。この事業の継続充実発展のためにはロータリアンからの寄付金が必要不可欠で、毎年寄付金のお願いをしております。

米山記念奨学会への寄付には「普通寄付金」と

「特別寄付金」の二種類があり、普通寄付は半期に一度、各クラブで決まった一人分の金額を会員数分送金する寄付で当クラブでは半期ごと一人2,000円、計年4,000円を送金しています。特別寄付金は任意でいただく寄付で個人、法人、クラブの三種類の寄付があり累計額に応じた表彰制度があります。更に所得税（個人）法人税（法人）の税制優遇が受けられます。

今年度の地区方針では、16,000円以上/人の寄付目標額となっていますので当クラブ会員のご協力をお願いします。

次に米山学友会について少し説明します。

米山学友（元奨学生）と現役奨学生によって組織される会で日本に31、海外に6（台湾、韓国、中国、タイ、ネパール、モンゴル）計37の学友会があり、奨学期間終了後もロータリーとの絆を結び学友同士の友情を深め、親睦を深めるだけでなく、ボランティアやロータリーの地域奉仕活動に参加するなどの活動を行っています。

本日ボックスに特別寄付のお願いを入れておりますのでご協力のほどよろしくお願い致します。



## 学生生活で感じたこと

当年度米山奨学生  
喬 磊さん

このテーマについて書こうとしたとき、自分の大学生生活はあとわずか5ヶ月しかないことを改めて実感しました。私にとってかけがえのない4年間は「あっ」という間に終わりそうです。この4年間では学業だけでなく、国内・海外インターンシップ、留学生サークル、海外語学留学、アルバイトなどでたくさんの経験をしてきました。本当に充実した大学生活を送っています。日本での学生生活のおかげで、私の日本語は上手になり、日本について深く知るとともに、自分の身で感じたことがたくさんありました。

日本での学生生活で私は大切だと感じたことが三つあります。一つ目は「素直な心」です。二十歳の時、夢と好奇心を持って日本に来ました。初めての海外留学、初めての一人暮らしでした。文

化と習慣の違いで分からないことや困ることがたくさんありました。例えば、日本語学校に通っていたとき、ゴミの分別を間違えて捨ててしまい、言語学校の奨学金を取り消された残酷な経験や、アルバイト先で上司の指示を正確に理解できていなかったのに、確認せずに進めてしまったため、怒鳴られた経験などがあります。これらは自分がわからないことを素直な気持ちを持って聞いていれば避けられた経験です。これらの経験から私がつくづく感じたことが「素直な心」の大切さです。この素直さを勉強した私は大学生活やアルバイト先でいつも素直に物事に対応し、分からなかった場合は、周りの人に聞いたり、教えてもらったりしていました。その結果、大学で留学生会の会長になり、アルバイト先の部長から就職の誘いもありました。素直な心を持てば周りの人から親切に教えてもらい、助けてもらえます。また、異国で生活や仕事をすることも同じく常に素直な心でその国の文化を受け入れ、相手の行動を理解することで自分の世界も広げていけると思います。

二つ目は「異文化尊重」です。「異文化尊重」の大切さを強く感じたのは大学二年生の時に参加したシンガポール海外インターンシップでした。多民族国家なので職場に様々な人種がいました。民族によって言葉、文化、習慣、考え方も違うので、仕事が進みにくいだろうと思いましたが、現地の社員たちは自分の文化や習慣などにこだわらずお互いの意見を聞きながら、うまく仕事を進めていました。研修中、スタッフと食事をするとき、インドネシア人は豚肉が食べられないので、職場で豚肉を食べないことになっていました。また、多民族国家なので様々な宗教活動があります。その時、日本人のスタッフも多民族の文化を尊重して活動に参加していました。これらで私が感じたのはやはり、異国という新しい環境の中でお互いに文化を尊重しながら、仕事が進むという異文化尊重でした。私も日本で生活するとき、自国の文化・習慣が当たり前ではなく、自国の基準で物事を判断してはいけないと思っています。

三つ目は「チームワーク」です。大学の授業やサークルなど、皆一つのチームになって何かを一

緒にすることが多かったため、「チームワーク」の大切さを感じました。特に大学三年生の時、留学生会会長に就任しました。就任した際は部員とのコミュニケーション不足から部員が活動に参加しなくなり、仕事をうまく分担できないなど問題がありました。そこでどうすれば留学生の意欲を高め、皆を巻き込んで活動ができるかを考えました。在学の60名の留学生と一人ずつ面談や電話でコミュニケーションを取りました。皆の意見を聞きながら、留学生会の役割や活動の目的を知ってもらい、責任感を与えました。その結果、留学生会のメインイベントである大学祭では過去最高21万円の売上を記録しました。この経験により文化の違いや見解の相違などの問題を理解し、諦めることなく皆が一つになって頑張るチームワークの大切さを改めて感じました。

日本での学生生活のおかげで、私は多くのことを学び、多くのことを感じました。その感じたことを自分のものにしてこれからの勉強や仕事に活かしていきたいと思います。最近の私は主に卒業論文と、内定をいただいた企業の課題に取り組んでいます。また、ロータリー米山奨学金を頂いたおかげで、睡眠時間を削って必死にアルバイトをせずに、今年度は以前から組み合わせた広島国際青年ボランティア活動にも参加し、子供に英語の絵本を読んだり、外国人に広島の観光案内をしたりするなど、貴重な経験ができています。残りの学生生活は短いですが、有意義に過ごし、できることややりたいことを精一杯取り組んでいきたいと思っています。



## 学生と社会人の違い

### — 就職後の感想 —



米山記念奨学会学友  
**張 化 さん**

皆様。お久しぶりです。また皆様の前でお話ができることをとても嬉しく思っています。

お陰様で以前にも増して充実した毎日を過ごしています。心から感謝しています。

本日のお話のテーマにつきましては、現在在学中の奨学生は、学生生活や就職活動における近況報告、私の就職後の近況報告など事前にお聞きしており、今日は「学生と社会人の違い」について少し報告させていただきます。

就職、つまり社会人となって3年が経過いたしました。振り返ってみると、まだ何も出来ない自分もいますが、3年前と比べてみると、少し仕事の内容が理解できるようになりました。

入社当時は仕事の内容が良く分からなくて、上司の言われる事をただこなす日々でした。

そのときには、仕事の楽しさなどがよく分からなくて、与えられた仕事について、できたかどうかもよく分かりませんでした。仕事について考え方も全く分かりませんでした。

そうした日々が続き、「自分は何もできない。周りの人に迷惑ばかりをかけている」と焦ってしまい、このままで大丈夫かと悩んでいたときもありました。

尊敬する上司や先輩に相談したこともあります。そこで教わったのは、現在の仕事を大事にし、少しずつ覚えることです。考え方が変わることで、仕事が徐々に楽しくなってきました。覚えた仕事を自分の意思で「こうして試してみよう」「ここ修正したらよりわかりやすい」等も考えるようになりました。それによって初めて自分自身が与えられた仕事と対面できているという感覚が芽生えて仕事が楽しくなってきました。今でも小さな目標を設定し、達成する楽しみに向けて頑張っています。

そして、自分が抱えている課題をどうやって解決していくかがもう一つの悩みです。この悩みも学生と社会人の違いかもしれません。学生の頃には、テストなどについて、自分で解けて自分の点数となる為、何回も確認することはなく、回答しやすく提出することが習慣となって、他人とか周囲の仲間のことなどは考えていませんでした。

しかし仕事上、このままでは通用しないことが良く分かりました。自分に任せられた仕事の内容を

充分確認せず提出すると、色々な指摘を受け、何度も修正していました。

そこでわかったのは、私の仕事の結果は私自身の責任で終わるのでなく、上司、仲間全体の責任になるということです。仕事は、テストと違って、独立で完成するものではなく、責任が繋がっており、より慎重に仕事をしなければならないことを日々学んでいます。

一方で、学生と社会人で同じ考え方が通用するところもあります。それは、一つのことに對して疑問を持ちながら、しっかりと考えることです。業務上のプロセスで、他の人がやっているデータに對して、アレンジして顧客提出することもよくあります。

最初の頃は、与えられた資料を正しいと思い込んで自分が確認していなかった為、間違いが発覚したときには、たくさんの工数を費やして修正したことがありました。このことは最悪の場合、お客さんの信頼を失うことにもなり、会社にも大きな損失となります。

そのため、現在ではデータを頂いてまず確認するようになりました。仕事は、確認から始まり完成までを組み立て、作業に入る—つまりSee-Think-Plan-Doです。

問題解決も同様です。まず、どうしてこうなったかの理由を考える、つまりSeeです。

この結果により今後の対応方法も異なってきますので、いつも作業に入る前に仕事の組立てを考えながら日々頑張っています。

最後に、中国語で小さいときに論語で覚えたことわざ「学而不思則罔，思而不学則殆」があります。意味としては、「人から学んでも自分でよく考えなければ身につけません。自分で考えるだけで人から学ばなければ過った道に行ってしまう危険性が高くなります」です。このことばを銘記して人から学ぶことと、自分でよく考えることの、両方を行いながら、自分を高めていこうと考えております。

今後とも宜しくお願い致します。



例会前の親睦活動委員会



遠来のお客様 大阪リバーサイドRC金井塚康弘君



誕生日 おめでとうございます



スマイルにて松田君の結婚報告



ゲストの張化さん ジョーイー君  
マリア・フェルナンダさん

● 卓話予告

日時	テーマ
10/16(木)	「カープと広島のスポート」 (株)中国新聞社記者 小西 晶氏